

図書館員の情報リテラシー教育力を問う

日時◆ 11月8日(木) 13:00~14:30 ◆会場◆ パシフィコ横浜 第1会場

主催：デジタル・ライブラリアン研究会 後援：株式会社紀伊國屋書店

近年、図書館でのブラウジングや資料探索のほかに、インターネットで Google や Yahoo などの検索エンジンを使えば、瞬時に多くの情報が入手できるようになりました。むしろ、入手した多くの情報から信頼できる確かな情報を選び分けることのほうが難しいくらいです。

それだけに各種のキーワードや情報ツールの特性を知り効率的な情報検索を行う能力が現代社会では不可欠です。そんな能力が身につけられるよう、図書館でも情報リテラシー教育の必要性が叫ばれるようになりました。

その一方で、情報リテラシー教育を行うための教材と人材の不足も指摘され、図書館の情報リテラシー教育力の向上は緊急の課題です。このフォーラムでは日米で情報リテラシー教育の実践に携わってきた図書館員により、主題専門性をも視野に入れつつ、その教育力向上をめざした徹底討論を行います。

第一部：講演発表

日米の図書館でご活躍の先進的なライブラリアンである3名の講師の方々から情報リテラシー教育の現状と図書館員が行う情報リテラシー教育はどうあるべきかを発表いただきます。

講演者：

呑海 沙織（京都大学医学図書館）

茂出木 理子（お茶の水女子大学附属図書館）

Keiko Yokota-Carter（米国ワシントン大学）

※アルファベット順

第二部：ディスカッション

講演者の発言を踏まえながら、デジタルライブラリアン研究会の代表であり図書館界のご意見番の糸賀教授が、図書館での情報リテラシー教育のあり方や可能性について切り込んでいきます。

コーディネータ：糸賀雅児（慶応義塾大学 文学部）

◆ お申し込み ◆

株式会社紀伊國屋書店 ライブラリーサービス部/デジタル・ライブラリアン研究会事務局

eメール： DL00@kinokuniya.co.jp *メールのみでの受け付けとさせていただきます。

(デジタル・リテラシー)

* 先着200名、受講票は後日メールにて送信いたします。